

幼稚園だより

ちよだ



11月号

令和7年10月31日
千代田区立千代田幼稚園
園長 須藤 敏之

メキシコからのお客様

園長 須藤 敏之

先月の親子運動日は、朝までの雨が嘘のように上がり、まるで空が子どもたちを応援してくれているかのような一日となりました。園庭には歓声と笑顔があふれ、“フェスティバル”をテーマにしたプログラムが賑やかに繰り広げられました。クラスごとの演技や親子で力を合わせる競技では、子どもたちが精一杯頑張る姿に大きな拍手が送られ、園庭全体が温かい空気に包まれました。終盤には再び大粒の雨が降り出し、急きょテントの下で閉会式を行うことになりましたが、それもまた心に残る思い出となりました。不安定な天候の中、ご協力くださった皆さまに心より感謝申し上げます。

先月下旬には、メキシコから私立大学の経営者や医師など十数名の方々が千代田幼稚園に来園されました。私と副園長がお客様を園内にエスコートすると、初めに4歳児さくら組の子どもたちがお客様に寄ってきて元気に「¡Hola! (こんにちは)」とあいさつをしてくれました。お客様は日本語で「こんにちは!」と笑顔で応えられ、温かな交流が始まりました。次の3歳児ばら組の教室では、子どもたちが制作やお家ごっこを披露し、最後の5歳児すみれ組の子どもたちは、「どんな遊びが好きですか?」、「どんな食べ物食べてますか?」と積極的に質問しました。お客様は翻訳機を通して「チャレリア(伝統的な馬術)です」、「タコスです。でも、日本の調理方法とは少し違いますが」と優しく答えてくださいました。子どもたちは嬉しそうに「ありがとうございます」とお礼を言っていました。普段とは違う?礼儀正しさに、私は目を細めるばかりでした。

遊びを終えると、子どもたちは自らおもちゃを片付け、布巾でテーブルの上を拭いて給食の準備を始めました。配膳が終わり静かに席に着いて「いただきます」を待つ姿に、お客様は「なんて落ち着いているのでしょうか」と感嘆され、日本の幼児教育の丁寧さや秩序の良さを高く評価されました。私は、「せっかくなので一緒に『いただきます』を言ってみてください」と促すと、お客様は子どもたちと一緒に両手を合わせて「いただきます」と言ってくださいました。たくさんのお客様が見守る中で、子どもたちは美味しそうに給食を食べ始めました。

お別れの時、子どもたちが「バイバイ」、「アディオス」と手を振ると、お客様は日本語で「ありがとう!」と応えてくれました。わずかな時間の交流でしたが、言葉の違いを越えて心が通じ合う瞬間がたくさんありました。子どもたちが異なる文化や考え方に触れることは、将来の国際的な感性を育む貴重な経験です。今回の出会いもきっかけに、「世界はひとつ」「心は通じ合う」という思いを胸に、これからも多様な人々と関わる楽しさを感じていってほしいと願っています。



千代田幼稚園のホームページもご覧ください。